



常盤公園で行われた第1回「環境出前スクール」。クイズ形式を取り入れたごみの分別体験で、吉備路クリーンセンターの職員から、答えを聞く子どもたち



講演する前横浜市長の中田宏さん



半額になった市指定ごみ袋の使用が10月1日、始まりました。「さらなる減量、リバウンド防止」は、市と皆さんがいっしょに取り組む課題です。平成18年4月、ごみ減量を目的にごみ袋を有料化。ごみの量は右ページのグラフのとおり、ほぼ右下がりに減り、平成20・21年度は、平成17年度比で20%以上の削減になりました。市では、さらなるごみ減量を推進するため、市職員

が皆さんのもとに出向き、ごみ減量の話やアドバイスを行う「環境出前スクール」を始めました。これは、ごみ減量サポーターと9月に交わしたごみ減量の約束「総社みんなの約束」(前ページに記事)に基づき、ごみ減量に向けた支援策の一つ。町内会や団体などからの要請を受けたり、市から開催を提案したりし、ごみ減量の必要性を広めていくことにしています。

第1回目は10月1日、常盤公園で開かれ、常盤小学校区の学童保育児童約70人が、ごみの分別体験やごみ収集車の見学をしました。さらに、量販店やスーパーなどの協力で進めている、マイバックの持参とノリレジ袋の推進。毎月10日

には「ノリレジ袋デー」です。ご協力ください。吉備路クリーンセンターの焼却灰を処理する市最終処分場(下倉)の処理能力も限界に近づきつつあります。ごみの減量は、施設の延命にもつながります。10月1日、総合福祉センターで前横浜市長の中田宏さんが「ごみ減量化と市民力」と題して講演し、ごみ減量サポーターら約300人が聴講。中田さんは「行政は市民が参加できる仕組みを作り広める。市民は、それに参加し新たな価値を生んでいくことが良い」と話しました。皆さん、販売額が半額になったが、ごみの量は逆に増えたということにならないよう、日々努めましょう。

皆さんのもとに出向いて、ごみ減量のアドバイスをします
環境出前スクール



団体やグループを対象に受け付けます。少人数でもかまいません。お話や実演などを含め、おおむね1時間程度の内容を予定しています。開催場所は、市内の会場で、確保や準備などは申込団体をお願いします。希望する場合は、環境課までご相談ください。

無料 随時受付中

申込先・問い合わせ 環境課美化推進係 (☎92-8338)

10月1日、市指定ごみ袋の半額スタート みんなので、ごみ減量を

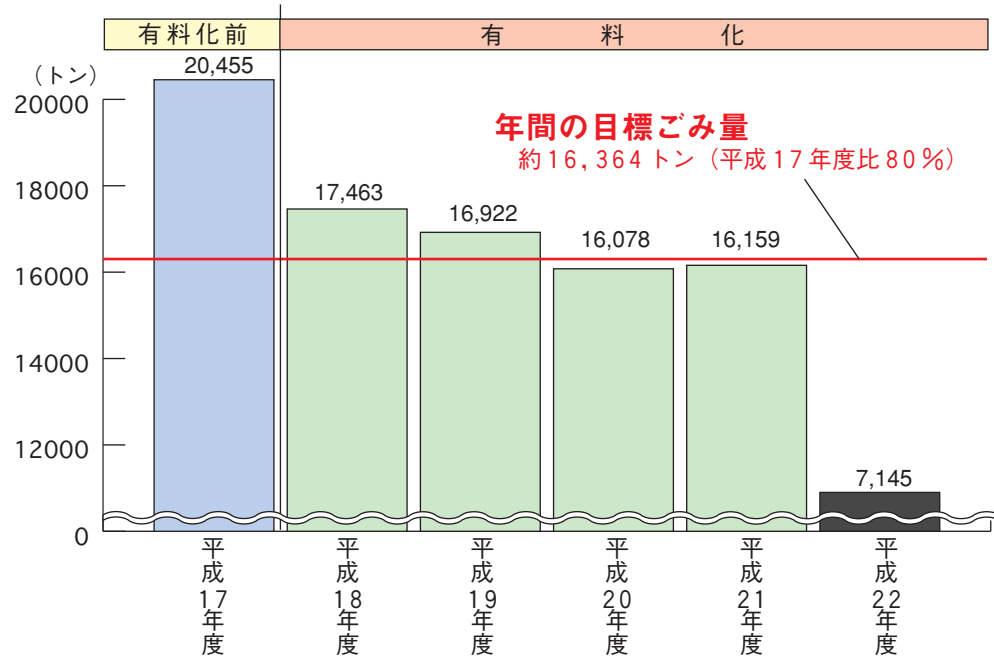
市指定ごみ袋の販売額の値下げと、販売額への変動相場制の導入を機に、市では市民と行政が一体となって、より一層ごみの減量を進めていこうと考えています。「環境出前スクール」と称し、ごみ減量の話やアドバイスを皆さんのもとに出向いて行う説明会もその一つ。ごみの減量にご協力ください。



新しい市指定ごみ袋の使用が始まった10月1日のごみ出し。旧ごみ袋も使えるため、新旧入り混じっていた

【ごみ袋交換のお詫び】

在庫不足により、ご来庁いただいたお客様に、お持ちいただいたすべてのごみ袋を交換することができず、深くお詫び申し上げます。今後の見通しは、納品が進んだ11月以降、枚数制限をさせていただきながら、交換させていただく予定です。ご迷惑をお掛けいたしますが、ご協力をお願いします。



年度別のごみの量の推移(平成22年度は9月末現在)。赤線は、削減目標としている平成17年度比80%を示す。平成20、21年度が目標を達成していることが分かる